

『令和の開国～外国人材が握る地方の未来』 上映・討論会

現代の日本では、少子化および大都市への人口集中に伴って、外国人が地方の人手不足を補っているという実態があります。本上映会では、東京や大都市圏からは見逃されがちな実態を現場から捉えたドキュメンタリー『令和の開国～外国人材が握る地方の未来』を鑑賞するとともに、ディレクターである高橋耕平（仙台放送）さんと外国人をめぐる社会課題を映像から検討している大塚大輔さんをお迎えして、地方からみた外国人との共生に関わる問題点を検討し、何が障壁となっているのか、それらをどう解決するべきかについて考えます。

日時：2026年7月18日（土）14：00～17：00

場所：明治大学駿河台キャンパスリバティタワー1011

プログラム：

14：00 開会（司会：荒又美陽（明治大学文学部））

14：05 - 14：30 中澤高志（明治大学経営学部）

「日本における外国人労働の受け入れの歴史と問題」

14：30—15：15 「令和の開国」上映

（上映後休憩）

15：30—16：15 高橋耕平さん×大塚大輔さん対談

「地方の外国人問題～どこに危機があるのか」

16：15—17：00 討論

高橋耕平（たかはし こうへい）

1995年岩手県二戸市生まれ。岩手大学大学院では細胞工学を専攻し、日夜、細胞培養に向き合う日々を送る。卒業後、仙台放送に就職し、入社7年目にあたる現在まで報道部に所属。警察・行政などを担当しながら、東日本大震災の被災地、人口減少問題、外国人労働者問題などテーマを継続的に取材。地方の外国人労働者をテーマに制作した「令和の開国～外国人材が握る地方の未来」は日本民間放送連盟賞の北海道・東北地区テレビ報道番組部門で優秀賞に選出。



大塚 大輔（おおつか だいすけ）

大阪外国語大学（現大阪大学）外国語学部卒。専門は韓国・朝鮮語。2014年から2024年まで別府市（大分県）文化国際課で、国際交流、日本語教育、外国人市民・留学生との共生に関する業務を担当。また、西日本各地の映画祭や上映会で、作品審査、プログラミング、司会、通訳を務めることもある。